

小山市事務事業評価シート

令和元年度版

No. 28

1. 基本情報										
＜1＞事業・業務名		介護ボランティア支援事業			＜2＞事業・業務の別		事業			
＜3＞選定基準		② 平成30年度に事業内容(対象・手段等)を見直した事務事業			＜4＞継続評価・新規評価の別		新規評価			
＜5＞総合計画基本計画での体系	大項目	10 みんなの「絆」を大切に安全・安心で健康なくらしづくり			＜6＞担当部(局)		保健福祉部			
	中項目	10-2 生きがいを持ち安心して暮らせるまち			＜7＞担当所属		地域包括ケア推進課			
	小項目	10-2-2 介護保険			＜8＞担当係等		地域支援係			
	施策	福祉のコミュニティづくり								
＜9＞根拠法令・計画等		介護保険法(地域支援事業)・すこやか長寿プラン2018			＜10＞関連・類似事業					
＜11＞会計		一般		会計		＜12＞予算科目				
＜13＞実施期間		年度 ~ 年度		＜14＞全体事業費		千円				
＜15＞実施手法		直営		「その他」の場合 ()						
2. Do - 実施 -										
＜16＞事業・業務の概要		高齢者等が行った介護ボランティア活動の実績を評価した上で、介護ボランティア活動評価ポイントを付与し、ポイント数に応じた転換品を贈呈する。								
目的	＜17＞事業・業務の目的	当該事業は地域支援事業の中の一般介護予防事業に位置付けられており、高齢者の社会参加促進及びボランティア活動を通じた介護予防の推進を図ることで、いきいきとした地域社会をつくることを目的とする。								
	＜18＞事業・業務の対象	いきいきふれあいセンター及び市に登録したボランティア団体において、介護ボランティア活動を行う40歳から64歳までの者。(要介護認定を受けた方を除く)								
手段	＜19＞平成30年度の活動内容	①平成29年度に交付した介護ボランティア手帳を回収し、評価ポイントに応じた活動転換品(道の駅思川商品券)を贈呈した。 ②平成30年度介護ボランティアの継続申請者及び新規申請者の登録を行い、介護ボランティア手帳を交付した。③団体の総会等でPRを行った。								
	＜20＞活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度				
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
		転換品交付者	人	168	154	168	176	104.8%		
転換品交付額	円	840,000	522,000	840,000	656,000	78.1%				
成果	＜21＞事業・業務の成果	①介護ボランティアの登録団体数の増加を図る。 ②介護ボランティア登録者数の増加を図る。								
	＜22＞成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度				
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
登録団体数		団体	62	51	59	58	98.3%			
介ボラ登録者数	人	240	222	720	267	37.1%				
資源	＜23＞投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	平成29年度		平成30年度				
						計画	実績	計画	実績	投入率(%)
		千円	1,510	1,052	1,669	1,258	75.4%			
		事業費等	千円	1,073	615	1,240	829	66.9%		
		財源内訳	国・県補助金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円	1,073	615	1,240	829	66.9%	
		人件費	千円	437	437	429	429	100.0%		
		正職員	千円 ×人役	7,195 ×	7,195 ×	7,146 ×	7,146 ×			
他の職員	千円 ×人役	4,367 × 0.1	4,367 × 0.1	4,283 × 0.1	4,283 × 0.1					
3. Check - 評価 -										
実績評価	妥当性	＜24＞事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1.妥当である							
		＜25＞事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	2.検討を要する							
		＜26＞事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	2.変わらずにある							
	有効性	＜27＞今後も市が実施する事務事業として妥当か?	2.検討を要する							
		＜28＞事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1.向上の余地はある							
	効率性	＜29＞(総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか?	2.中位							
公平性	＜30＞事務事業の効率の向上の余地はあるか?	1.向上の余地はある								
	＜31＞民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か?	1.検討可能である								
＜32＞受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	1.妥当である									
＜33＞総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由	登録団体の中では、介護ボランティア支援事業は浸透していると思われるが、まだ未登録のボランティア団体もあり今後も広く周知する必要がある。							
4. Action - 改善 -										
事業の改善	＜34＞事業の課題 事業の改善点 今後の方針	平成30年度から、事業の対象者の年齢を40歳以上へ引き下げた。今後はより多くの若手の方に登録して頂けるよう更に周知する。市民に介護ボランティア事業について周知することで、介護ボランティア登録者数の増大を図る。								
事業の方向性	＜35＞1次評価	所属長	2.変更	理由	現在行なっている「介護ボランティア手帳」の形式や評価ポイントの計算、転換品の手続き等、事務的な部分を見直していく。また、より広く周知を図るための方法を工夫する。					
	＜36＞2次評価	所管部長	2.変更	理由	超高齢社会の中で、高齢者の社会参加を通じた介護予防は重点課題である。今後ますます大切な事業であるが、限られた人員の中で、より効率的に遂行していくための検討を実施。併せて社会福祉協議会などの外部への委託の可否についても研究していく。					
5 Plan - 計画 -										
事業の計画	＜37＞実施計画	・いきいきふれあいセンターやボランティア団体での説明会を実施し、登録者の増大を促進する。 ・メディアを通じた介護ボランティアポイントについての広報、啓発活動を実施する。 ・地域支え合いフォーラムや、その他高齢者の社会参加や介護予防を啓発する場などを積極的に活用し、周知を図る。								
	＜38＞活動・成果目標	介護ボランティア登録団体数、介護ボランティア登録者数を増やす。	＜39＞コスト計画	単位	令和元年度	令和2年度				
					計画	計画				
				千円	1,779	2,113				
事業費等	千円	1,350	1,684							
人件費	千円	429	429							

